〔日本紀略十二〕長和四年閏六月廿五日癸卯、大宋國商客周文德所獻孔雀、天覽之後、於左大臣北南第作其巢養之、去四月晦日以後、生卵十一丸、異域之鳥忽生卵、時人奇之、或人云此鳥聞雷聲孕、出因緣自然論云々、但經百餘日未化雛、延喜之御時○時下脫有字恐如此之事云々、

〔台記〕久安三年十一月十日庚午、傳聞、攝政○藤原忠通獻孔雀、鸚鵡於法皇、○羽鳥是西海莊所貢云々、四年四月五日壬辰、申孔雀於新院○崇德見之、仁和寺法親王○覺性所獻云々、其尾頗似畫孔雀、其體貌美於去年孔雀、六日癸巳、今日返獻孔雀、

〔本朝世紀〕久安四年閏六月五日辛酉、抑去春頃、太宰府博多津、宋朝商客渡孔雀及鸚鵡於本朝、卽獻宇治入道大相國、○藤原忠實大相國被傳獻法皇、○羽鳥又仁和寺法親王○覺性自商客之手傳得孔雀、同被獻法皇、御覽之後、各被遣返本所、

〔豕庵集〕南貢孔雀

披香殿裡畫屏風、孔雀雙飛隴樹叢、海舶今年新入貢、文章恰爾似圖中、

同

遙隨漢使度重溟、修尾團花雲亂零、銅柱西南三萬里、梳榔樹下雨冥々、

〔若狹國稅所今富名領主代々次第〕一一色修理大夫滿範○中略

同○應永十五年六月廿二日に南蕃船著岸、帝王御名亞烈進卿、番使使臣○問本丸阿彼帝より日本の國王への進物等、○中略孔雀二對、

〔太閤記十六〕遊擊將軍日本再渡の事

大明正使參將謝用梓龍岩、副使遊擊將軍宇愚兩人、小西攝津守○行長同船にて、八月○文祿三年晦日、大坂に至て著岸せしかば、正使は羽柴備前中納言秀家所にて馳走申べし、副使は蜂須賀阿波守所にしてもてなし候へとなり、九月朔日御禮申上、大明の皇帝より、御裝束紅葉衣色赤袖紫緋の大口、